

授業改善アンケート 結果集計表

2021年度前期

分類名 大学全体

履修者数 43566名

回答者数 17909名

回答率 41.1%

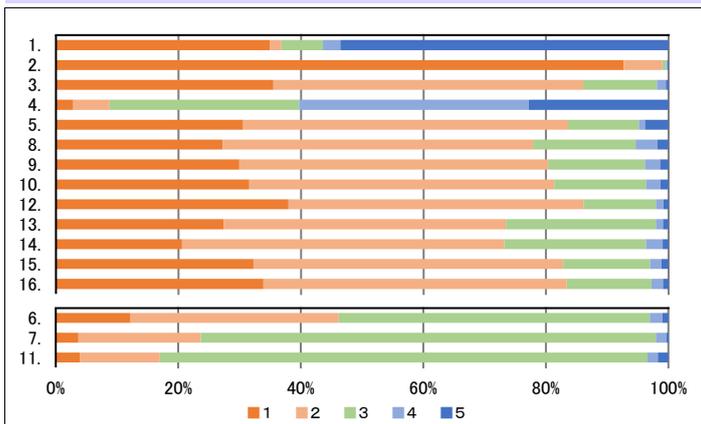
項目別回答分布(Q17は複数回答可)

設問	大学平均	平均(前回)	平均(今回)	1	2	3	4	5	無効
1. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。 ① 授業に興味があったから ② 教員に興味があったから ③ 空き時間があつたら ④ 単位が取りやすいから ⑤ 必修科目だから	--	--	--	6265	331	1211	502	9600	0
2. あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。 ① ほとんど出席した ② 3分の2程度出席した ③ 半分程度出席した ④ 3分の1程度出席した ⑤ ほとんど出席しなかった	4.91	4.89	4.91	16600	1127	115	33	34	0
3. あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.19	4.10	4.19	6356	9062	2154	256	81	0
4. 1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。 ① 3時間以上 ② 2時間 ③ 1時間 ④ 30分以下 ⑤ 全くしてない	2.29	2.53	2.29	503	1071	5537	6716	4082	0
5. この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして行われましたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ 講義内容を読まなかった	--	--	--	5474	9498	2073	175	689	0
6. この授業の難易度はどうでしたか。 ① とても難しい ② やや難しい ③ 適切 ④ やや易しい ⑤ とても易しい	--	--	--	2185	6084	9102	362	176	0
7. この授業の進行速度は適切でしたか。 ① 速すぎた ② やや速かった ③ 適切 ④ やや遅かった ⑤ 遅すぎた	--	--	--	666	3576	13304	314	49	0
8. 教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.98	3.74	3.98	4873	9071	3005	636	324	0
9. 教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.05	3.90	4.05	5364	9020	2840	442	243	0
10. 黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.08	3.80	4.08	5653	8911	2687	416	242	0
11. 各回の提出課題の量はどうでしたか。 ① とても多かった ② やや多かった ③ 適切 ④ やや少なかった ⑤ とても少なかった	--	--	--	702	2338	14260	298	311	0
12. この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.21	3.97	4.21	6796	8623	2124	214	152	0
13. 授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.98	3.72	3.98	4904	8253	4385	206	161	0
14. あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.89	3.67	3.89	3687	9422	4143	488	169	0
15. この授業の内容は興味深いものでしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.11	3.97	4.11	5777	9054	2542	330	206	0
16. この授業の総合評価を5段階で評価してください。 ① とてもよい ② よい ③ どちらともいえない ④ 悪い ⑤ とても悪い	4.14	3.94	4.14	6069	8865	2474	336	165	0
17. この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。 ① 新しい知識や技能が身に付いた ② 新しいものの見方が身に付いた ③ 関連分野をさらに学びたくなった ④ 問題に対する発見能力や解決能力が身に付いた ⑤ コミュニケーション能力が向上した	--	--	--	14354	8081	5212	3352	1886	463
18. (担当教員独自設問)	--	--	--	482	418	283	96	69	16561
19. (担当教員独自設問)	--	--	--	241	244	175	73	45	17131
20. (担当教員独自設問)	--	--	--	211	186	186	51	27	17248

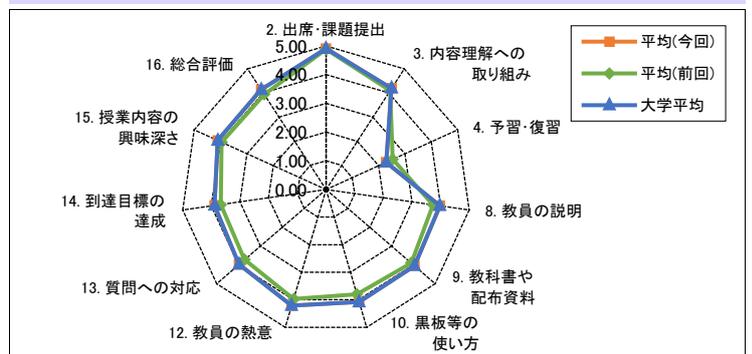
クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.25	5838	7894	1408	192	86	0
3. 消極参加(4・5)	3.06	24	106	117	46	44	0
14. 達成度高(1・2)	4.36	5582	6812	640	62	13	0
14. 達成度低(4・5)	3.00	48	208	198	103	100	0

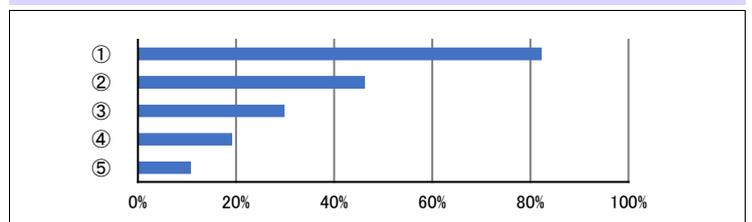
100%横棒グラフ(有効回答のみ集計)



レーダーチャート



Q17. 回答割合(有効回答のみ集計)



授業改善アンケート 結果集計表

2021年度後期

分類名 大学全体

履修者数 32021名

回答者数 12246名

回答率 38.2%

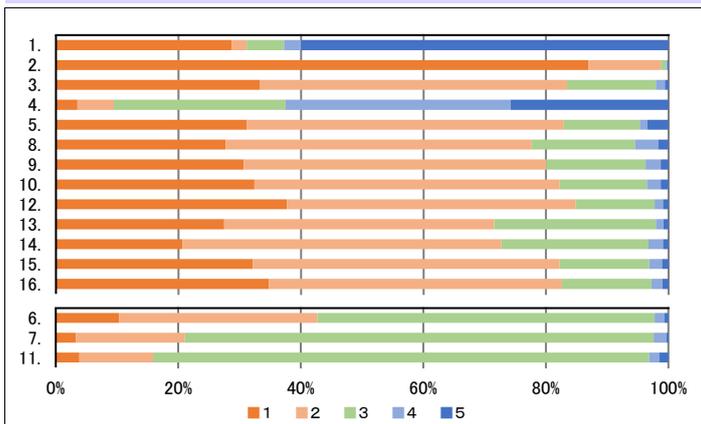
項目別回答分布(Q17は複数回答可)

設問	大学平均	平均(前回)	平均(今回)	1	2	3	4	5	無効
1. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。 ① 授業に興味があったから ② 教員に興味があったから ③ 空き時間があつたから ④ 単位が取りやすいから ⑤ 必修科目だから	---	---	---	3519	292	748	340	7347	0
2. あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。 ① ほとんど出席した ② 3分の2程度出席した ③ 半分程度出席した ④ 3分の1程度出席した ⑤ ほとんど出席しなかった	4.85	4.89	4.85	10642	1449	108	18	29	0
3. あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。 ① 強く思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったく思わない	4.14	4.14	4.14	4072	6145	1774	182	73	0
4. 1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。 ① 3時間以上 ② 2時間 ③ 1時間 ④ 30分以下 ⑤ 全くしてない	2.25	2.51	2.25	430	725	3434	4495	3162	0
5. この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして行われましたか。 ① 強く思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ 講義内容を読まなかった	---	---	---	3819	6332	1519	150	426	0
6. この授業の難易度はどうでしたか。 ① とても難しい ② やや難しい ③ 適切 ④ やや易しい ⑤ とても易しい	---	---	---	1270	3965	6739	198	74	0
7. この授業の進行速度は適切でしたか。 ① 速すぎた ② やや速かった ③ 適切 ④ やや遅かった ⑤ 遅すぎた	---	---	---	402	2178	9375	254	37	0
8. 教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。 ① 強く思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったく思わない	3.98	3.85	3.98	3393	6115	2066	465	207	0
9. 教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。 ① 強く思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったく思わない	4.06	3.96	4.06	3753	6050	1986	302	155	0
10. 黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。 ① 強く思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったく思わない	4.10	3.91	4.10	3968	6101	1742	281	154	0
11. 各回の提出課題の量はどうでしたか。 ① とても多かった ② やや多かった ③ 適切 ④ やや少なかった ⑤ とても少なかった	---	---	---	472	1475	9918	199	182	0
12. この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。 ① 強く思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったく思わない	4.19	4.06	4.19	4618	5775	1577	162	114	0
13. 授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。 ① 強く思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったく思わない	3.96	3.81	3.96	3363	5396	3234	148	105	0
14. あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。 ① 強く思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったく思わない	3.89	3.79	3.89	2526	6379	2939	291	111	0
15. この授業の内容は興味深いものでしたか。 ① 強く思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったく思わない	4.10	4.02	4.10	3937	6132	1787	262	128	0
16. この授業の総合評価を5段階で評価してください。 ① とてもよい ② よい ③ どちらともいえない ④ 悪い ⑤ とても悪い	4.14	4.01	4.14	4259	5857	1784	222	124	0
17. この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。 ① 新しい知識や技能が身に付いた ② 新しいもの見方が身に付いた ③ 関連分野をさらに学びたくなった ④ 問題に対する発見能力や解決能力が身に付いた ⑤ コミュニケーション能力が向上した	---	---	---	9705	5790	3728	2456	1461	386
18. (担当教員独自設問)	---	---	---	415	370	241	64	60	11096
19. (担当教員独自設問)	---	---	---	394	301	167	46	52	11286
20. (担当教員独自設問)	---	---	---	217	237	249	46	29	11468

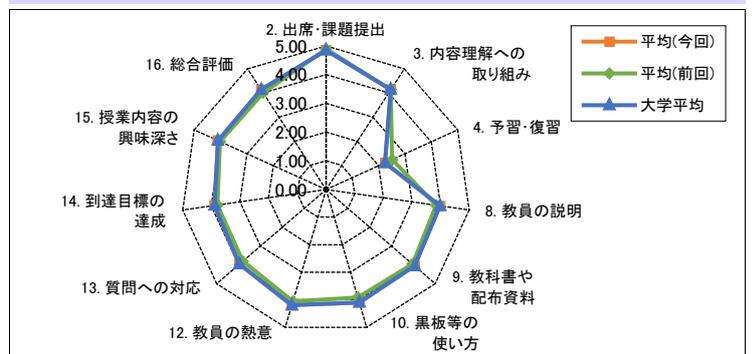
クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.26	4019	5058	955	132	53	0
3. 消極参加(4・5)	3.15	31	77	82	28	37	0
14. 達成度高(1・2)	4.38	3892	4534	418	49	12	0
14. 達成度低(4・5)	2.94	33	116	116	69	68	0

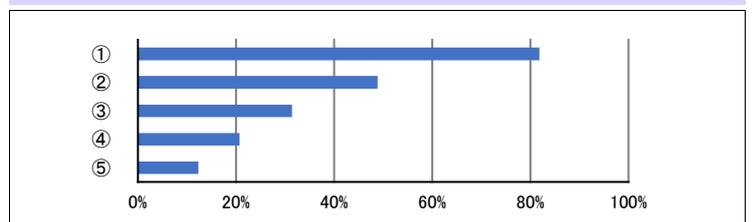
100%横棒グラフ(有効回答のみ集計)



レーダーチャート



Q17. 回答割合(有効回答のみ集計)



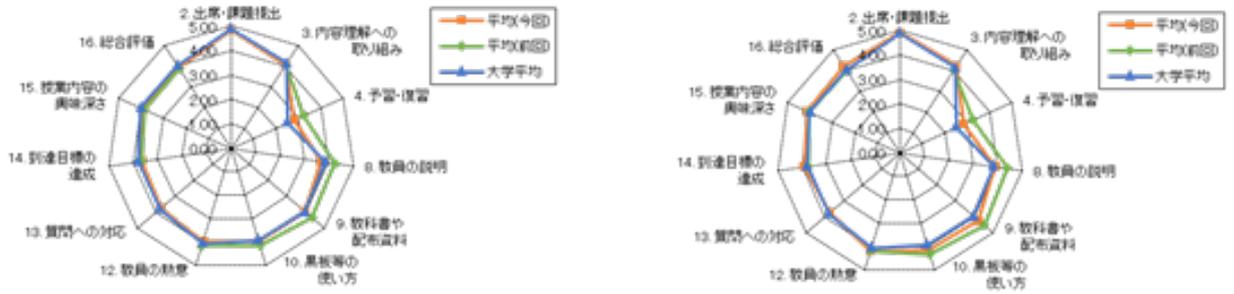
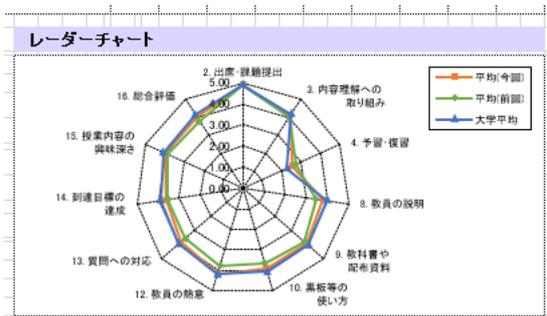


図1. 生命科学科千住キャンパス（左）と東京西キャンパス（右）の2020年度後期の授業改善アンケート結果のレーダーチャート

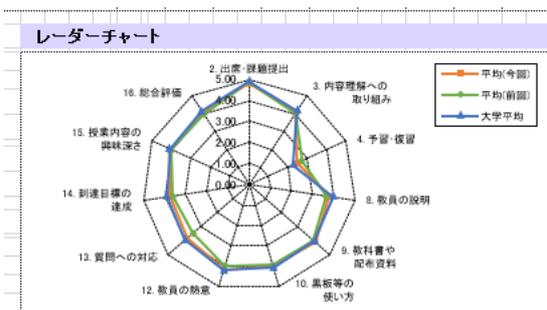
2021年度授業改善アンケートまとめ

【千住】



クロス集計(授業参加×総合評価-達成度×総合評価)							
クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3.積極参加(1・2)	4.11	116	164	55	8	2	0
3.消極参加(4・5)	3.07	0	8	2	3	2	0
14.達成度高(1・2)	4.31	104	127	22	1	0	0
14.達成度低(4・5)	3.20	4	14	12	6	4	0

【東京西】

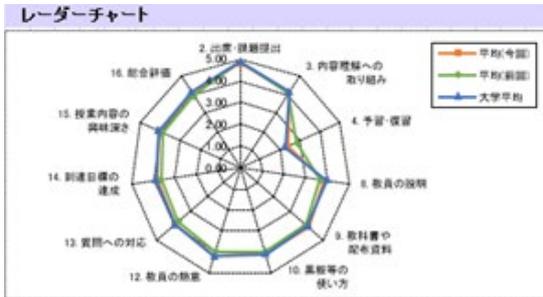


クロス集計(授業参加×総合評価-達成度×総合評価)							
クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3.積極参加(1・2)	4.13	44	117	13	4	0	0
3.消極参加(4・5)	3.33	0	2	0	1	0	0
14.達成度高(1・2)	4.28	44	93	3	1	0	0
14.達成度低(4・5)	3.00	0	4	4	2	1	0

・有効回答率 千住 29.9%、東京西 43.9%

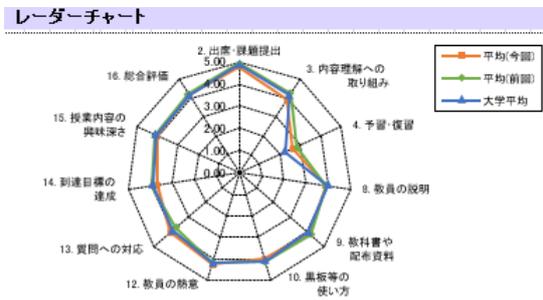
図2 生命科学科 2021年度前期授業改善アンケート結果

【千住】



クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.15	117	147	43	7	4	0
3. 消極参加(4・5)	3.25	0	5	1	1	1	0
14. 達成度高(1・2)	4.36	110	123	17	1	0	0
14. 達成度低(4・5)	2.62	1	7	4	9	5	0

【東京西】



クロス集計させる項目	平均(今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.29	29	49	5	0	0	0
3. 消極参加(4・5)	3.63	1	4	2	1	0	0
14. 達成度高(1・2)	4.39	29	41	1	0	0	0
14. 達成度低(4・5)	3.40	0	5	4	1	0	0

図3 生命科学科 2021年度後期授業改善アンケート結果

・有効回答率 千住 33.3%、東京西 41.0%

【背景】2020年度の対面、非対面の授業形態から本格的に対面授業の実施に戻って1年後の結果である。2020年度の結果を振り返り比較しつつ2021年度の考察を行う。2020年度前期は新型コロナ蔓延により非対面による授業であった。後期に対面を徐々に解禁し、多くの難しい点があったと思われるが、「到達目標の達成」、「授業の興味深さ」、「総合評価」から判断すると例年レベルの授業を維持できたと考える。2021年度は前期のアンケートにて回答率が低調であったことを鑑み、学科内の意見として授業内でのアンケート実施を一部試みた。結果、千住の後期の回答率が29.9%から33.3%へ微増した。

【2021年度アンケート結果より好ましかった考察】

・アンケート設問項目にある「教員説明」「配布資料の適切性」「熱意」「質問対応」など教員側の授業運用に関しては大学平均、2020年度調査時と比較し前期・後期ともに不変、または微増の結果であり授業の質は担保できているのではないかと考えられる。

【2021年度アンケート結果より課題とされる考察】

・受講人数によって回答率の数値が大幅に増減するが科目によっては回答率が数%であることが大きな課題である。
 ・予習・復習にかかる時間が2020年度の調査より低下している。2020年度は非対面授業により課題型授業が多いため復習にかかる時間が多かったと分析できるが2021年度に関しては大学平均よりは高いものの30分未満の学生が相当数存在する。授業理解度や課題提出

のスコアは低くないことから、自主学習をせずに授業をこなせる能力が学生にあるのか、教員側が授業を取り組みやすく工夫しているのか判断が難しい

【総括】

・今回アンケートに参加した学生は授業や教員指導に対し、コンプライアンスの良い学生が多いことが予想される。コンプライアンスの良い学生は授業、教員に対し好意的な場合が多いため、得られる結果は良い方にバイアスが かかっていることが想定される。真の授業評価を抽出するには回答されていない6～7割の学生の意見が重要であると考えられる。アンケートの回収率を上げるための方策として学科内での意見をまとめたところ紙ベースからオンライン回答に変えたことが回答率の低下に繋がっているのではないかと意見が出された。その背景として昨年の意見交換により回答率向上を目的とした対策として授業中にアンケートを行うことを試みたが、アンケートを行う“ふり”をしている場合があり、紙ベースで直接回答し、回収の方が確実であるとの意見が出された。この事案は他大学から赴任した教員からの意見として、前勤務先の大学にも見られた傾向であったとの意見が挙げられた。対策としてはアンケートを回答することに対するインセンティブが必要であるとの意見であった（例えば授業評価点の加点など）。

・最大の課題は授業アンケート回答率の低さにある。今回の分析が学生の授業に対する真の評価であればよいがアンケートを回答していない学生の中に大きな問題があるのであれば抽出するための方策を検討する必要がある。

・従来までの口頭周知やメールアナウンス、オンライン形式、授業内アンケートで行うことに限界があるのか2022年度の結果を注視する必要があると言える。

・近年、国語読解力の低下が言われており、数式計算力の低下も読解力のトレーニングを行うと成果が上がる報告がある。そのトレーニング方法としてリーディングスキルテストと改善プログラムを導入の提案がある。

2021年度授業改善アンケート結果の総括と改善点について

2020年度の非対面授業と2021年度の対面授業における自然環境学科全体のアンケート結果の比較を行った。東京西，千住キャンパスともに，また前期，後期ともに説明の仕方，資料等の使い方，熱意で2020年度よりも2021年度の方が高かった（表1，2）。その結果，総合評価でも2020年度よりも2021年度の平均値の方が高い値であった（表3）。このことから，各教員による授業改善の効果が少しずつ表れていると考えられる。また，非対面授業よりも対面授業の方が学生にとっても理解しやすかったのではないかとと思われる。

一方，2021年度は両キャンパスの前期・後期とも2020年度よりも予習・復習の時間が減少し，また学生による授業内容理解への取り組みに大きな変化は見られなかった（表1，2）。このことから，学修に対してもっと多くの学生に積極的に取り組んでもらえるよう学生本位の授業から学修者本位の授業へと発展させていく必要がある。

【学生からの自由記述】

➤ 良かった点：

- ・テスト前の解説や授業資料がわかりやすかった。
- ・とても面白い授業だった
- ・先生自身の研究分野の関連性から熱が伝わってくる良い授業であった。
- ・オンライン授業よりもわかりやすく感じた。
- ・高校化学の内容が大半であったが，自分の知識がいかにあいまいであったかを認識できる良い授業であった。
- ・おぼろげな認識，知識が鮮明になった良い授業であった。
- ・一週間で一番楽しみな授業でした。

➤ 改善して欲しい点：

- ・スライドを映す時間が短いので，もう少し時間を長くしてほしい。
- ・プリントが白黒なのでわかりづらい。
- ・小テストの実施を前もって知らせてほしい。

表1. 東京西キャンパス

	前期		後期	
	2020	2021	2020	2021
予習・復習*	2.68	2.39	2.62	2.28
内容理解への取り組み	3.98	4.10	3.94	3.92
説明の仕方	3.89	4.01	3.93	4.06
資料等の使い方	3.93	4.10	4.00	4.25
熱意	4.07	4.20	4.04	4.28

* : 2.50=平均1時間

表2. 千住キャンパス

	前期		後期	
	2020	2021	2020	2021
予習・復習*	2.56	2.20	2.65	2.15
内容理解への取り組み	4.05	4.05	4.05	3.91
説明の仕方	3.83	4.00	3.93	3.99
資料等の使い方	3.90	4.17	4.01	4.17
熱意	3.97	4.18	4.08	4.19

* : 2.50=平均1時間

表3. 総合評価

	東京西キャンパス		千住キャンパス	
	2020 (非対面)	2021 (対面)	2020 (非対面)	2021 (対面)
前期	4.09	4.12	4.03	4.15
後期	4.04	4.21	4.09	4.18

2021 年度授業改善アンケート振り返り

【総括】

両キャンパス共に、教員が提供するアンケート項目については、前回よりも平均点が高い結果となった。これは、各教員が改善に向けて努力した成果であると考えられた。一方、両キャンパス共に学生の受講態度にかかわる項目については、両キャンパス共に前回よりも平均値が低い結果となった。

また特に、東京西キャンパスでは多くの項目が大学平均値よりも上回っていた。一方で、出席・課題提出と予習復習は大学の平均値を下回っていた。これについては、結果を踏まえて分析し改善策を考える必要がある。

ただし、これらの結果には、コロナ禍における遠隔授業の形態や社会的不安の影響も関与していると考えられる。とりわけ、2020 年度における非対面の遠隔授業と、原則対面授業に移行した 2021 年度の比較であることを考慮しなければならない。たとえば、授業の理解度については、対面授業の方が非対面授業よりも高得点を得る可能性がある。また、非対面授業の場合、授業時間と予習復習の区別がつきにくい現象が生じると考えられ、少なからずアンケートの結果に影響を及ぼしていると考えられる。

【今後に向けての改善策】

学生の学習に取り組む姿勢の改善や、学習に対する動機づけを向上させる必要があると考えられる。その方略の一つとして、たとえば、学生の将来像や職業を明確に意識させる、千住キャンパスにおいては国家資格試験の受験を意識させることで、未来志向を促すことによって現在の学習の意欲を向上させるなど、様々な方法で工夫していくことが必要であると考えられる。

また、他学科の改善に向けての方略の中で有効と考えられるものを参考にし、本学科に適用させて採用する方法も効果があると考えられる。具体的には、他学科の取り組みとして、国家資格や免許取得の条件として出欠の記録を厳格に行ったり、国家試験対策として自習を奨励し自習時間を確保したりしている。千住キャンパスでは、愛玩動物看護師の国家資格取得が最重要課題であるため、同様に国家資格取得を目指す他学科の国家資格取得の有効な方略を積極的に取り入れていきたいと考えている。とりわけ、国家資格取得を目標としている他学科から学生の学習への動機づけや継続性をどのように高めているかについての情報を得て、反対に本学科から他学科へと有効な方法を提供するために、学科を超えた連携をとっていきたいと考えている。

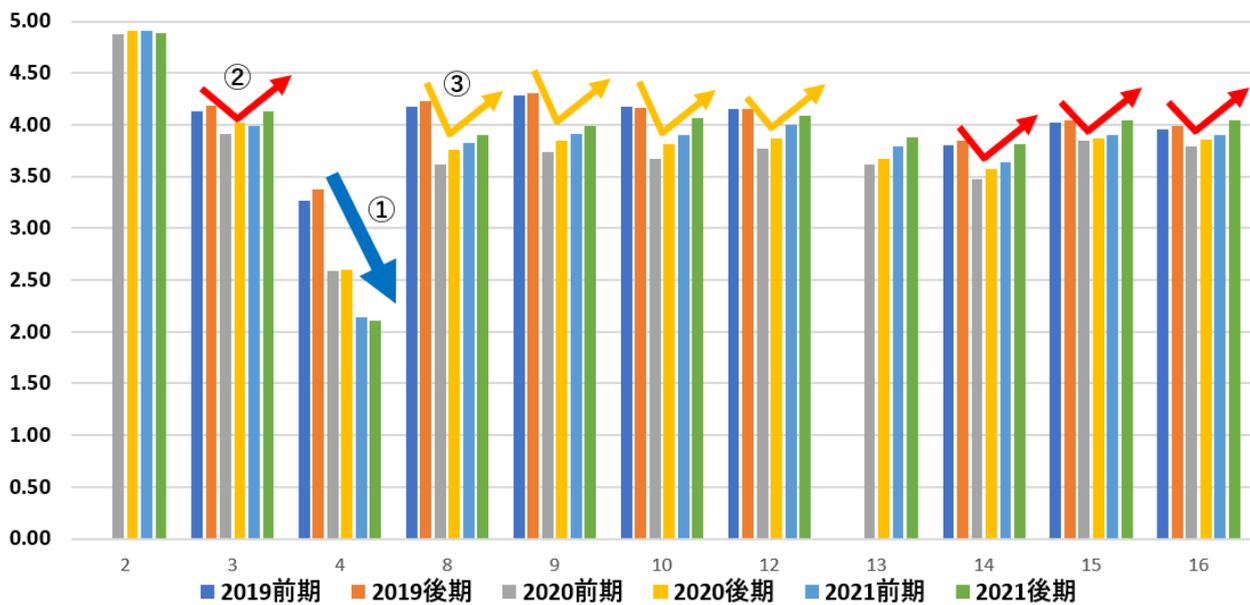
また、本年度に新しく導入された Webclass の機能を各教員が習熟し積極的に活用することによって、学生の学習意欲の向上への寄与、授業の効率化や発展性も期待できるので、学科全体として新たな方針を立て取り組んでいきたいと考える。

2021年度授業改善アンケートの学科振り返り

1. はじめに

昨年度授業改善アンケートの総括では、対面授業を実施していた2019年度と、非対面授業を多く実施した2020年度の結果を単純比較することは難しく、継続的な分析が重要であることを報告しました。2021年度は、教室の使用人数制限や、感染対策を遵守することで一年間を通して対面での授業を実施することができました。これらの経過を踏まえて、2021年度授業改善アンケートの分析および総括を行います。

2. 2019-2021年度 理学療法学科 授業改善アンケート集計結果



3. 2020年度授業改善アンケートの分析および総括(※アンケート項目は簡潔に記載)

①→「4.予習・復習をどのくらいしたか」が低下している。

2019年度から低下していますが、項目変更と授業方法の差異が関係していると思われます。2019年度では「3:少しした」とされていましたが、2020年度からは「3:1時間した」に変更されました。そのため2020年度より数値が低下したと考えられます。2020年度から2021年度でさらに低下した理由としては、2020年度は非対面授業に伴い課題が多かったことが考えられます。学習時間が本質的に減っているかについては、来年度との比較が必要であると考えられます。

②→「3. 授業内容を理解するため積極的に取り組んだか」「14.授業の到達目標を十分に達成したと思うか」「15.授業内容は興味深いものだったか」「16.授業の総合評価を評価」が2019年度と同水準に戻っている。

これらの項目には内発的な学習意欲が多く含まれています。2020年度は非対面授業により学習意欲が保てない学生が多くいたと考えられます。しかし2020年度では対面授業が再開されたことで学習意欲が高まり、2019年度の水準に回復したと考えられます。このことから、対面での学習指導や実技指導が学生の学習意欲を向上させる重要な要因であることが考えられます。

③→「8. 説明の仕方はわかりやすいか」「9. 教科書や配布資料は効果的だったか」「10. 黒板, プロジェクター, 添付資料, 動画等の使い方は効果的だったか」「12. 教員の熱意は感じられたか」が2020年度より上昇しているが2019年度の水準までは戻っていない。

これらには学習環境や授業方法に関する項目が多く含まれています。非対面授業が多かった2020年度より向上が見られますが、2019年度の水準には届いていません。学生コメントを参照すると、2部構成授業や2教室サテライト授業に関する改善要求を多く確認できました。これらの授業形態は、感染対策に伴う教室利用者数制限を遵守しながら対面授業を実施するため行われています。今後は学生コメントを参考に、通信環境などの影響を受けずに、学習内容の統一が図れるような対策を講じる必要があると考えられます。

4. 今後に向けた理学療法学科の改善策

2020年度より感染症対策を講じながらも、授業の質を落とさないように学科として取り組んできました。これらの取り組みと、過去三年間の授業改善アンケート(学生の声)を照らし合わせることで、より良い授業を展開するための改善点が明らかになりました。2022年度以降も、対面授業を継続できるよう感染対策を講じながら、まずは授業形態を改善できるよう対策を強化して参ります。

2021 年度授業改善アンケートの学科振り返り

【総括】

非対面授業であった 2020 年度と比較して、対面授業を再開した 2021 年度のアンケート結果は、多くの項目で改善が見られた。回答率は 40.4% だった。

具体的には、「授業内容を理解するための積極的な取り組み」、「教員の説明の仕方の分かりやすさ」、「教科書や配布資料は効果的だったか」、「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方が効果的だったか」、「教員の熱意」、「授業時間内外の質問への対応」、「授業の内容の興味深さ」「授業の総合評価」などの設問で改善が見られた。

課題としては、前年度と比較して、予習復習の平均時間が少なかったが、前回（オンライン）の時は「課題」なども毎回のようであり、やらざるを得ない環境だったのではないかと推察される。また、作業療法士学校養成施設指定規則の改正に伴い、2020 年度入学生から開始した作業療法学科の新カリキュラムでは、専門科目で演習・実習科目が多く、授業時間数が増えているため、予習復習の時間が確保しにくくなっている可能性もある。

また、前年度よりは改善しているものの、到達目標を十分に達成していないと感じる学生がいた。到達目標を十分に達成できたかについて、「どちらともいえない」と回答している学生も多く、達成できたか否かよりも、到達目標の提示と、その理解が不十分である可能性も考えられる。難易度についての設問で「とても難しい」(9.6%)、進行速度についての設問で「速すぎた」(3.8%) と回答している学生もいることから、一部の学生は、目標に到達するために、授業以外の補習などが必要な可能性がある。

【改善策】

■回答率が低かったことについて

→すべての科目で QR コードを提示し、授業終了後に可能な限り教室で回答してもらう。

■予習復習の平均時間が少なかったことについて

→予習・復習については自主性に任せるだけでなく、強制でなくても、こういうことは調べた方がよい、覚えておいた方がよい等、予習・復習の内容や方法についても提示する。職員室には、専門教室の貸し出し申請用紙（ファイル）があり、申し出があれば個人でもグループでも借りることができるが、専門教室の貸出手続きについて今まで以上に周知し、空き時間を有効に活用することで予習復習の時間を確保することを促す。

■到達目標を十分に達成していないと感じる学生がいたことについて

→「どちらともいえない」と回答している学生も多く、到達目標が十分に理解されていない可

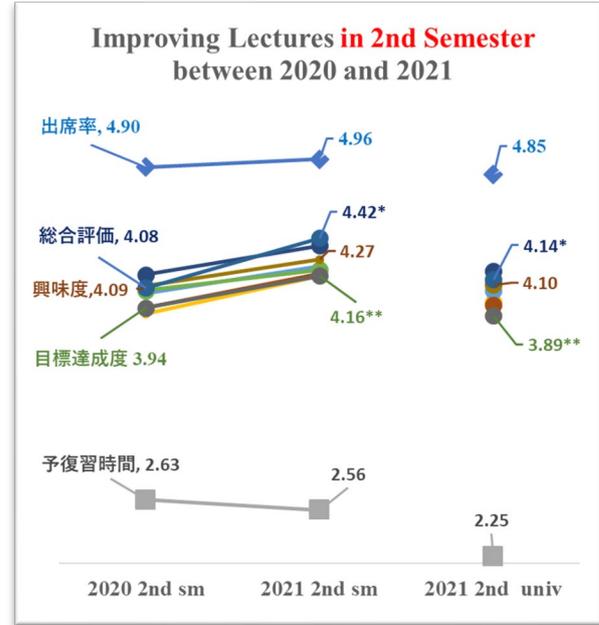
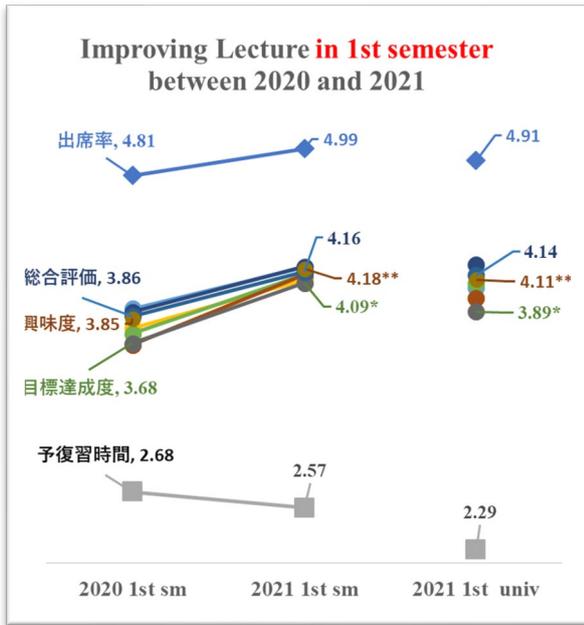
能性もあるため、初回の授業や毎回の講義の中で明確化する。また、授業の難易度が「とても難しい」、授業の進行速度が「速すぎた」と回答した学生も一部にいたことから、授業内容の理解度を確認しながら、必要な学生には補習をすることで、すべての学生が到達目標を達成することを目指す。

2021年 <アンケートによる省察> 2021年前期および2021年後期

<授業アンケートのなかで学習モチベーションを代表する項目による分析>

1). 2021年前期結果 (2020前期との比較)

2). 2021年後期結果 (2020後期との比較)



結果

1) 2021年前期の特徴 (2020年度前期と比較)

- ①出席率 (レポート提出含む) 4.81→4.99 : 0.18 上昇・・・大学平均 4.91 (学科は大学平均より +0.08)
- ②予習復習時間 2.68→2.57 : 0.11 低下・・・大学平均 2.29 (学科は大学平均より +0.28)
- ③興味度 : 3.85→4.18 : 0.33 上昇・・・大学平均 4.11 (学科は大学平均より +0.07)
- ④目標達成度 3.68→4.09 : 0.41 上昇 (最大上昇)・・・大学平均 3.89 (学科は大学平均より +0.20)
- ⑤総合評価 3.86→4.16 : 0.30 上昇・・・大学平均 4.14 (学科は大学平均より +0.02)

2) 2021年後期の特徴 (2020年度後期と比較)

- ①出席率 (レポート提出含む) 4.90→4.96 : 0.06 上昇・・・大学平均 4.85 (学科は大学平均より +0.11)
- ②予習復習時間 2.63→2.56 : 0.07 低下・・・大学平均 2.25 (学科は大学平均より +0.31)
- ③興味度 4.09→4.27 : 0.18 上昇・・・大学平均 4.10 (学科は大学平均より +0.17)
- ④目標達成度 3.94→4.16 : 0.22 上昇 (最大上昇)・・・大学平均 3.89 (学科は大学平均より +0.27)
- ⑤総合評価 4.08→4.22 : 0.14 上昇・・・大学平均 4.14 (学科は大学平均より +0.08)

省察

1) 2021年前期の省察

- ・すべての項目で大学全体よりも値が高い 特になら・・・予習復習時間 (+0.28 : %means=12.22%)
- ・・・目標達成度 (+0.20 : %means=8.73%)

- ・予習復習時間以外は前年度より**上昇度高い（後期に比して）**・・・特に目標達成度（+0.41：%means=11.14%）
- ・出席率，興味度，目標達成度の上昇 → 「総合評価」としての上昇評価・・・0.30 上昇：%means=7.77%
- ・クロス集計による：2つの項目へのアプローチ：①授業への参加（積極性） ②目標達成度

クロス集計させる項目	平均 (今回)
3. 積極参加(1・2)	4.34
3. 消極参加(4・5)	3.20
14. 達成度高(1・2)	4.42
14. 達成度低(4・5)	3.00

No.3：積極参加度>消極参加・・・差+1.14（%means：30.21%）

No.14：達成度高>達成度低・・・差+1.42（%means：38.38%）



2020 以来の進級後の久々の対面授業：すべての項目に高い上昇度・・・進級後の前期授業では、「前年度とは異なる」・・・という学生の自覚・・・学生の授業に対する意気込みが感じられる・・・学習習慣をつけさせるには「前期」の反応性が良い

2) 2021 年度後期省察

- ・すべての項目で大学全体よりも値が高く、出席値を除いて前期より差が大きい。
 - ・・・総合評価（+0.28：%means=6.74%）目標達成度（+0.27：%means=6.73%）
- ・予習復習時間以外は前年度より**値が高い（前期に比して）**・・・特に総合評価：4.42
- ・興味度（4.27），目標達成度（4.16）が最高値 → 「総合評価」として最高値（4.42）を裏づける。
- ・クロス集計による：2つの項目へのアプローチ：①授業への参加（積極性） ②目標達成度

クロス集計させる項目	平均 (今回)
3. 積極参加(1・2)	4.53
3. 消極参加(4・5)	3.00
14. 達成度高(1・2)	4.56
14. 達成度低(4・5)	2.50

No.3：積極参加度>消極参加・・・差+1.53（%means：40.80%）

No.14：達成度高>>達成度低・・・差+2.06（%means：58.38%）



- ・予習復習を除いて昨年度より上昇かつ出席率を除いて最高値が出現
- ・特に3つの学修モチベーションに関する示数：①興味度 ②目標達成度 このことに裏付けされた③総合評価は、大学全体よりより高いが出現
- ・{前期よりも後期に多い実習・実技項目}・・・学習モチベーションの指標（達成度の明確化）になりうるか
 - ①1年次前期：後期=1：5 ②2年次前期：後期=1：1.3 ③2年次前期：後期=1：2.3
- ・後期の学生アンケート時期・・・学年末の学修達成感が出現する・

以上により

- 1) **2021 年度前期の特徴**・・・前年度からの対面授業の順次再開の結果・・・アンケート値上昇度高い
・・・授業に対する自覚が形成される・・・「授業のやる気を引き出すには後期よりも前期」
- 2) **2021 年度後期の特徴**・・・学習モチベーション示数が最高値を示す・・・特にクロス集計による積極参加度および達成感が高い値・・・学科のカリキュラム配置（実習・実技項目が後期が多い）および学年末の達成感によるものか。・・・「カリキュラム配置」および「達成感の実現」による学習効果が期待されるのか[。

2021年度 授業改善アンケート結果について

【総括】

■授業方法について

[良かった点]

- ・ 前期・後期とも「授業内容を理解するための積極的な取り組み」、「授業に対する興味深さ」、「授業に対する総合評価」が増加し、前年度より授業へ取り組む姿勢に改善が見受けられた。
- ・ 「総合評価」とする満足度も前期 4.00、後期 4.19 と増加し、さらに実践的な授業を展開し、専門性を活かした学修機会を提供していく。

[改善点]

- ・ アンケート全体の回収率が、前期 41.8%、後期 27.9%と不十分な結果であった。
- ・ この点を改善するために、講義内の周知やアンケート実施など積極的にアンケートを実施しやすい環境を設定する。
- ・ 各細目において留意する点は、「教員の説明の仕方のわかりやすさ」、「授業に対する予習・復習時間」などが、前年度と比較して大きく低水準であり、大学平均にも達していない傾向であった。
- ・ そのため、授業内・外における実技練習のサポートや学習の理解度に応じた提示できる課題学修など自己学習の機会も取り入れ、基礎科目から専門職教育の質を向上させる取り組みを検討していく。

■授業環境について

[良かった点]

- ・ 前年度より「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方が効果的」との回答が得られ、改善されている傾向があった。

[改善点]

- ・ 「教科書や配付資料の効果」は前年度と比較して低水準の数値となっており、授業環境の工夫として、引き続き、取り組んでいく。

【今後に向けた改善策】

[科目に対する意見について]

- ・ 各教科とも授業内容をより理解しやすくするため、視覚教材や配布物など学習ツールの活用を今まで以上に進めていきます。
- ・ 学生は、専門知識の理解をすすめていくために、下記の自己学習の方法について、確認してほしい。
 - ①「理解不足の原因」のひとつとして「自己学習時間の不足」も一因となり、「授業の理解度」の不十分な学生が一部見受けられます。教科書や授業資料のみならず、大

学の図書館などの学内施設を利用し、予習・復習など積極的な自己学習に取り組める環境を整えて下さい。

- ②「理解不足の原因」を抱える多くの学生からは、「勉強の仕方がわからない」、「専門用語が難しい」という声が聞かれます。授業内容はわからないままにせず、助言教員や科目担当教員などに積極的に相談し、まずは、勉強の習慣や仕方を身に付けてください。
- ③シラバスに記載されている「授業における到達目標」を確認した上で、興味がある分野には積極的に取り組んでください。特に、理解度の低い授業は放置せず、担当教員との関わりを持って、簡単なことでも構いませんので、相談する姿勢を身に付けてください。

[授業の進行について]

- ・ 各科目における授業の進行について、授業内の学修内容が理解されやすいように適切な板書やスライド、資料提示などに取り組んでいく。
- ・ また、リフレクションシートなどの活用も適宜導入していく。
- ・ 学生は、自身の課題提出や授業外学修が円滑な授業進行に役立つため、下記の点について、確認してほしい。
 - ①課題レポートなどの提出物は、期限を厳守し指示された体裁に則り提出してください。
 - ②休み時間や授業の空き時間に実習室利用（授業で使用していない場合）を可能としているため、積極的に理学療法技術（実技）の練習に取り組んでください。
 - ③少しずつ学習面に対する相談する学生が増えてきましたが、質問や意見など、学科教員が随時受け付けていますので、遠慮せずに声を掛けて下さい。

以上

2021 年度授業改善アンケート結果に対する学科の振り返り

【総括】

2021 年度授業改善アンケート結果は、前回のアンケート結果と比較して多くの項目で上回る値となった。

「授業の到達目標」や「総合評価」をみると、学科全体としては、わずかではあるが授業の改善が見られたと考えられる。

「教科書や配布資料が効果的であった」、「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方」で特に改善がみられたが、非対面授業の際に作成した動画や配布資料を対面授業において、復習等に使用した結果であると思われる。また、「教員の熱意」、「教員の説明の仕方」、「授業時間内外における質問への対応」の項目でも改善がみられ、対面授業におい

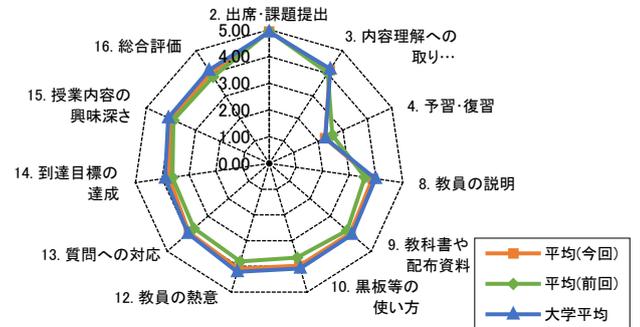
て各教員が非対面授業での経験を踏まえ学生の理解度を高めるように工夫をして取り組んだ結果と考えられる。

今回の結果では、多くの項目で前回は上回る結果となり改善がみられているが、学生の「1回の授業あたりの予習・復習の平均時間」では前回は下回る結果となった。学生の回答をみると「30分以下」と回答した学生が最も多く、次に「1時間」が多い回答であった。また、予習・復習を「全くしていない」と回答した学生が3番目に多い回答であるが、授業時間外の予習・復習時間が「30分以下」、「全くしていない」と回答した学生を合わせると全体の約6割であった。対面授業となり課題学修が減ったことも関係していると考えられるが、以前からの懸案事項である授業時間以外の学習は今後も引き続き改善が必要である。

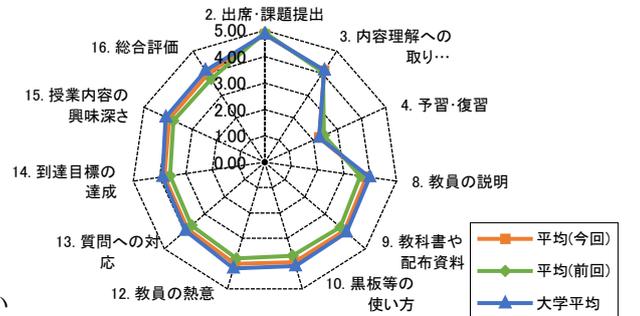
【今後の改善について】

- ・「教員の説明の仕方」、「黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方」等については引き続き学生の理解度を高めるように工夫をして授業を行う。
- ・「授業の内容」では学生が興味を引く内容を様々な分野から取り入れながら、学生の積極性を促す授業を行うように努める。
- ・授業時間外の学習を「30分以下」、「全くしていない」学生を減らすように助言教員も含めて図書館などの学内施設を利用した予習・復習の習慣づけを促していく。

【2021 年度前期】



【2021 年度後期】



2021年度 授業改善アンケート結果のまとめ

○レーダーチャート

前期は57科目、後期は29科目に対して授業改善アンケートが実施された。レーダーチャート(図1、2)をみると、各項目の得点は大学平均を上回った。

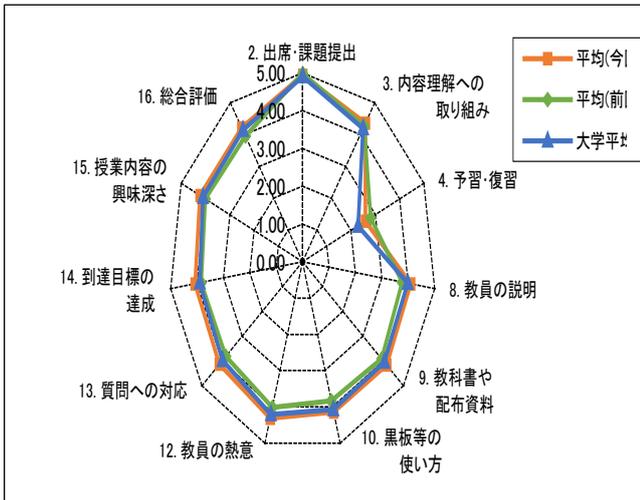


図1. 前期アンケート結果レーダーチャート

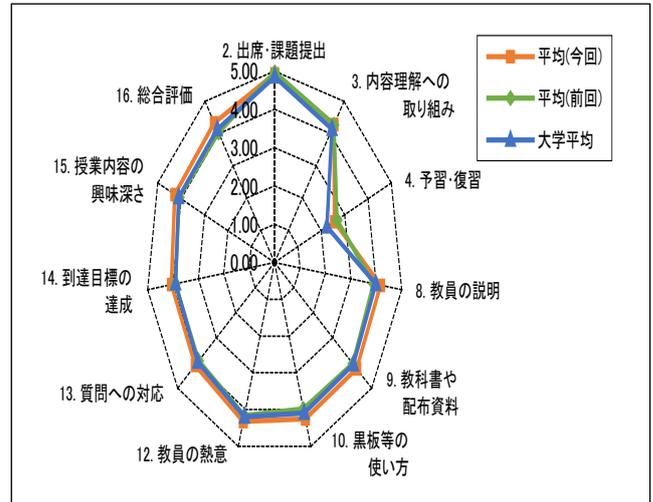


図2. 後期アンケート結果レーダーチャート

○自由回答

【肯定意見の例】

「質問したら、しっかり教えてくれた。」

「初めての看護研究で、できているかとても不安だったけれど先生が笑顔で対応してくれて、安心して課題にとりくめた」

「臨床の病棟の実態や、看護師として関わるうえで大切なことを学ぶことができ、興味をもつことができた。」

「先生の経験した話から具体的な活動内容や活動していく上での大変さなどを知ることによって、看護職の仕事に興味を持つことができた。」

「例を挙げ授業をしてくれ、とても理解しやすかった。」

「疾患を学ぶ上で最も大切な基礎知識を授業前に解説してくれたので、看護についての学びを深めることができた。」

「資料は図やイラストが用いられて分かりやすくまとめられており、看護の大切なことを多く学ぶことができた。」

「プロジェクター資料がとてもわかりやすかった。」

「わからないとき、先生は詳しくわかるまで教えてくれた。」

「授業前に前回の授業内容やリアクションペーパーでの疑問点などをフィードバックしてもらえて、疑問点を解決しながら理解を深めることができた。」

「身体の動作や働きなどを講義で聴くだけでなく実際にその場で動作をしてみるといった体験型の授業だったため、印象に残る授業だった。」

「先生と生徒のコミュニケーションが多くとてもよかった。」

「授業資料や授業から、先生の熱意がすごく伝わってきたので、しっかり授業を受けたいと感じた。」

など、上記以外にも多数の肯定意見がアンケートに記載されていた。

〔是正意見の例〕

「学生が授業に対する意欲を減退させるような言葉遣いだったため、非常に精神的なストレスを感じた。」

「教員が授業開始時間に遅刻した。」

「授業時間を平気でオーバーして終わるのはいかがか。学生のことも考えていただきたい。」

「授業で、飲み物が禁止なのが理解できません。近年、義務教育でも問題になっているのにも関わらず、なぜでしょうか。試験時に飲めないのは理解できますが、授業中に禁止なのはわかりません。どうしても禁止だと言うのなら、納得できる理由を教えてください。」

「先生によって熱量が違う。ただプリントを読み上げるだけの人もいれば、わかりやすく資料で教えてくれた人もいた。自分で勉強するのは当たり前だがもう少しわかりやすくしてほしい。」

「先生が書いた本を音読しているだけの授業だと感じたので、もう少し工夫した授業にしてほしい。」

「プリントの穴埋めだけしか授業をやらず、期末試験の範囲なども全く教えてもらえず、説明がとても適当に思えた。」

「授業資料も配られておらず、先生がただ話しているだけで何の話をしているのか全く分からなかった。」

「配布されたレジュメと授業内容が違いすぎて分かりづらかった。」

「メールで質問を送っても、回答が直接会わないと聞けないという点を改善してほしい。」

「試験範囲をもっと明確にしてください。」

などの是正意見がアンケートに記載されていた。

○授業改善アンケート結果からの考察

- ・学生の学習意欲を高められる言動、動機づけが重要である
- ・教員も学生に評価されているという点を意識して授業・演習に取り組む必要がある
- ・教員の臨床経験に関する内容は、学生の興味や関心を高める
- ・教員の経験や具体的事例を教材として用いた場合、学生の理解は高まる
- ・知識・技術を教授する際に、学生がイメージしやすいよう具体例をあげる
- ・学生が理解しやすい表現におきかえて伝えるなど、工夫する
- ・前回授業のポイントを授業の冒頭で伝える
- ・授業中やその後も教員と学生との間でコミュニケーションを図ることができている
- ・学生が到達目標を達成するには何をどのように伝えるべきかなど、しっかりと検討された授業である
- ・資料がその授業を理解することによって効果的な教材になっていること（内容、見易さ、図・イラストの活用、復習に役立つ）
- ・授業内での質問やメールによる質問に丁寧に回答している
- ・リアクションペーパーによる質問や意見に対して次の授業で丁寧に回答している
- ・学生が参加し体験できる授業方法を取り入れている

- ・看護過程の添削では、学生個々の記録にもコメントしたほうが学生は加筆・修正しやすい
- ・教員の熱意が学生に伝わる大切である
- ・必要に応じて、単位の修得に向けた配慮が求められる

以上

1. 2021年度、前期・後期授業改善アンケート結果

学科平均を基準とした「大学平均」「前回(2021年)平均」との差を、下記の表にまとめた。「大学平均」「2020年(前年度)」との平均値の差はほとんどないと言える。僅差での比較だが、大学との比較では、平均値が上回ったのは前期が4項目、後期が8項目である。2020年との比較では、前期が9科目、後期8科目である。一方、平均値が下回ったのは、大学との比較では、前期が6項目と多い。

全体的には、「2020年(前年度)」との比較で、平均値が上回った項目が多かったことを評価できる。

【学科平均を基準とした 「大学平均」「2020年(前年度)平均」との差】		2021年度<前期>			2021年度<後期>		
		学科	大学	2020年	学科	大学	2020年
1	あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。	-			-		
2	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。	4.92	0.01	0.1	4.84	-0.01	-0.02
3	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。	4.20	0.01	0.02	4.20	0.06	-0.01
4	1回の授業につき、予習・復習を平均してどのくらいしましたか。	2.55	0.26	-0.05	2.50	0.25	-0.14
5	この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして行われましたか。	-			-		
6	この授業の難易度はどうでしたか。	-			-		
7	この授業の進行速度は適切でしたか。	-			-		
8	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。	3.97	-0.01	0	4.06	0.08	0.17
9	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。	4.07	0.02	0.08	4.06	0	0.08
10	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。	4.08	0	0.11	4.14	0.04	0.19
11	各回の提出課題の量はどうでしたか。	-			-		
12	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。	4.14	-0.07	0.01	4.27	0.08	0.21
13	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。	3.93	-0.05	0.04	4.06	0.1	0.16
14	この授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。	3.83	-0.06	0.12	3.92	0.03	0.07
15	この授業の内容は興味深いものでしたか。	4.10	-0.01	0.03	4.15	0.05	0.07
16	この授業の総合評価を5段階で評価してください。	4.09	-0.05	0.01	4.14	0	0.15
17	この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。	-			-		
		+4項目 -6項目	+9項目 -1項目		+8項目 -1項目	+8項目 -3項目	

■ 差が、+0.1P以上
 ■ 差が、-0.1P以上
■ 差が、+0.09P以下
 ■ 差が、-0.09P以下

2. 今後の課題

2020年度の授業改善アンケートの振り返り結果で「今後改善したい項目」としたのは、項目4「予習・復習」、8「教員の説明」、9「教科書や配布資料」、10「黒板等の使い方」であった。

上記4項目について、2021年度は項目4「予習・復習」の平均値が下がり、他3項目は上がった。これを踏まえ、下記を課題としたい。

- ・「予習・復習」の時間確保は、各担当教員が工夫している。学生の様子を見ると、複数の課題が重なって苦勞している様子もある。しかし、学生からみて高評価につながっていない。課題を増やす方向だけでなく、予習・復習の具体的指定など方法の検討が必要。
- ・8「教員の説明」、9「教科書や配布資料」、10「黒板等の使い方」については、引き続きの課題とする。
- ・14「授業の到達目標を十分に達成したか」については、科目の難易度や取り組みやすさなども影響していると思われる。難易度が高くて、一定のゴールを学生にわかりやすく示したり、授業方法の工夫などが必要である。

R3 年度 授業改善アンケート 学科振り返り

令和3年度は全面的な対面授業再開へ舵を切りつつ、依然として新型コロナウイルス感染状況の影響を受け、少なからず希望者には非対面授業対応を行いながら 正常化へ向けて模索しつつ授業を進めていった1年間であった。

【対面授業再開と改善への工夫について】

- ・令和2年度入学生は、昨年度、対面授業の受講経験がほとんどないため、対面授業受講のための心構え、学習方法等を各科目できめ細かく指導して、学習意欲を高めて安心して受講できるよう配慮した。
- ・対面授業を再開する一方で、(特に感染ピーク時期において)感染拡大防止のための着席位置の指定、三密を回避するための教室分割(一方へ同時中継)、さらにグループワークは避ける、学生からの口頭発表はしないなど従来とは異なる授業形態が求められる中での開講となった。
- ・以上の授業形態でも所定の学習目標が達成できるように、内容を一部変更した。その結果、教員からの一方的な解説等の比率が増加した。
- ・教室を分けた授業では、上記のように一方の教室から他方(隣室)へ教員の説明等を映像中継したが、送り側の教員から映像の受け手である(隣室の)学生の状況が把握しづらく、受講生の理解度の逐次確認がやや難しかった。
- ・以上において、複数教員担当科目では、教員間連携の徹底、進行速度、説明内容、資料提示方法やプロジェクターの使用方法等において、様々に工夫して対応した。
- ・学生からの質問や、学生同士の学習サポートや意見交換などが認められたが、感染状況を見据えつつ、適切な感染予防処置を講じた上で、徐々に学生の積極的な授業参加を可能とする授業環境に戻していきたい。
- ・演習授業等における学外活動、実習は、活動/実習受け入れ先の感染対策や感染者発生状況に鑑み、活動時間数の一部削減や中止による座学への振り替え、実習の停止や期間変更等が数多く発生した。再開にあたっては他科目の影響が及ばないように配慮した。
- ・(ある科目においては)履修生のほぼ全員が、授業期間中に初等教育実習に行くために、全員がそろうことが少なかった。しかし、コロナ感染対応でいろいろな補完手段に教員・学生共に習熟してきたので、授業の録画対応等が円滑にできた。
- ・以上から、授業時間外の指導、連絡が増加したが、CampusSquareや助言教員を通じた周知などの対応方法について教員側の習熟により対応がスピーディに適時に実行できるようになり、大きな混乱なく円滑かつ柔軟に授業が実施できた。

【個々の授業実施結果のふりかえり】

(実技系)

- ・全体的に予習・復習の比重が低下した。
- ・以上について、ノートの見直しやまとめ、制作時のアイデアスケッチや資料作成などの自宅課題を増やし、理解・技術向上に役立てられるように努めていきたい。

- ・また、今年度は授業内において、課題や自宅学習に関して明確に指示したため、この点で評価が上がった。ただし、実技のみを行う科目は変化がなかった。
- ・実技と座学の配分を流動的に変えて行えるようにしたい。
- ・授業中の学生の取り組み姿勢はとてよく、積極的に授業に参加できていた。これは実技系では対面授業が指導の前提となるために、非対面授業が大部分を占めた昨年度からの反動とも考えられる。
- ・（図工）課題内容と充当時間のバランスについて、実技上の個々の学生の能力・特性に合わせて時間を設定する難しさがあったが、指導時のアドバイスや作業サポート、授業外の図工室使用対応などでサポートできればと考える。
- ・（音楽）基礎理論とピアノ演奏という構成で授業を進めた。学生からはこの方法が好評であった。
- ・（保育の指導法）幼稚園教育実習で（保育現場で）必要となる曲目を指導した。学生の幼稚園教育実習に対する認識が多様で取り組み方に差があり、個別指導を増やしてきめ細かく対応した。

（講義/演習系）

- ・演習課題には積極的に取り組む力があり、発表を求められても対応ができていた。しかし、聴講のみになると集中力が低下してしまう学生が散見された。
- ・以上から、演習課題を多めに導入した。配布資料には重要な専門用語を記入する穴埋め式にし、授業中は常に手を動かさなければならないよう工夫して、自然に集中力が維持できるよう配慮した。
- ・授業はじめに前回授業の重要部分を確認する5問程度の小テストを毎回実施した。その結果、繰り返し学習による知識の定着促進や勉強の範囲が明確になり、学習意欲に良い影響を与えることができた。
- ・（制限のある中で）発表の機会を2回設けたことにより、学生各自の主体的な学びができた。
- ・個人とグループでそれぞれ発表させたり、考案した表現を取り入れたため、学生相互の交流が盛んになったり、他者の考えを取り入れる機会を得ることができ、学びの意欲が保たれた。
- ・グループワーク等では、在籍人数の少なさから班分け方法に変化を持たせて、グループ構成を工夫した。
- ・考える時間と学生同士で考えを共有する時間の配分についてのバランスを適切に配慮する必要がある。
- ・アフターコロナを見据えて、感染対策に十分配慮しつつ、学生同士で考えを伝え合い、受け止め合い、いろいろな考え方の視点を知るための時間を増やしていくことを心掛けたい。
- ・興味関心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身に付け、学びのモチベーションを高めていけるように、楽しく考える機会を今後も提供していきたい。
- ・（教職実践演習（4年））教員を目指す者として、在学中最後の学びの貴重な機会である。授業づくりのポイントを考え合い、指導案を作成する授業展開としたが、卒業後の不安や困っていることを共有して、考え合うという時間が必要であると感じられた。今後はそのための時間も設けたい。

（実習系）

- ・（施設実習）既習の関連知識が少なく（関心も持っていないことが多い）集中力を欠く傾向が認められた。興味を感じて主体的に取り組める導入の工夫等、授業内容のさらなる改善が必要である。
- ・（初等教育実習）実習に向けて各学生が主体的に事前準備や実習に取り組むことを支え、指導するための声かけ、助言をしていく必要がある。そのためには一人一人の学生の理解；実態を知ることが心掛けたい。

- ・(保育所/幼稚園実習) 新型コロナウイルス感染状況の影響で、予定していた期間や年度内に実習を行えないケースが複数生じた。そのため、再調整のための大学、園と学生の3者間での連絡が増加したが、特に実習地とは密に連絡を取ることができトラブルなくすべての実習を終えることができた。
- ・(保育所/幼稚園実習) 体温チェック表やPCRの検査結果等の学生が準備すべきもの、感染防止のための大学や実習園のルールや注意事項等の学生が心得るべき事項が増加して事前準備が複雑化した。全員が期限内にきちんと所定の準備ができるよう時間配分や説明方法等を改善したい。
- ・(保育所/幼稚園実習) 直前になって実習期間が変更になると、事前の各検査が無駄となってしまうため、学生の経済的負担が増加したケースが発生した。
- ・以上についての確かな状況の推移と見極めは困難を伴うが、この経験を今後生かして事前指導の説明にあらかじめ説明を入れておく等、学生の理解を確実に得る工夫をしていきたい。

【その他】

- ・当学科は学年の在籍者数が少人数であるため、仲の良い友達グループができると固定化されやすく、別のグループへの移動が難しくなることが多い。一人で行動したい者や、グループに馴染めなかった者が肩身の狭い思いをする可能性がある。教員側で(着席位置やグループ分け等)配慮をする必要がある。
- ・より良い受講環境を実現するために各自の特性に寄り添った授業担当教員と助言指導教員が協力した表裏一体の指導、学科全体での情報共有が重要である。
- ・令和2年度以降、新型コロナウイルス感染防止他対応のため、さまざまな機器や授業支援システムの使用に(非常勤講師も含めて)全教員が習熟した。
- ・ここで得たスキルや経験は、今後、感染対策が不要になり、通常の対面授業が実施できるようになっても、より良い授業を実現するためのツールとして、大いに活用できると考える。

【本アンケートについて】

- ・より多くの学生から本アンケートを回答してもらう方法を工夫したい。
- ・授業中に回答のため時間をとって授業改善アンケートに回答できるようにしたい。
- ・回答率を上げるために、本アンケートの目的を学生に説明して理解してもらうことが必要である。
- ・学生が指摘したことが、その後の改善に役立っているということが学生にも「見える化」できれば、学生も(アンケート回答に)意欲を持てると思うので、その方策を検討したい。
- ・自分が評価した授業と(再履修しなければ)再会することはないので、教員が実際に授業改善したかどうか、わかるような方策を検討したい。

2021 年度授業改善アンケート結果について

【授業の良かった点・課題など】

□全体的な傾向

- ・授業改善アンケートに対する学生の回答率が高い科目と低い科目があり、来年度に向けて回答率をアップさせる工夫をする必要がある。
- ・多くの項目で大学平均を上回る科目と、若干ではあるが下回る科目があり、授業方法の工夫や学生への学習に対する意欲を高めるような授業改善が課題として挙げられる。
- ・全体的に予習・復習の時間が少ないので、具体的な課題を提示するなど、この時間を増やす工夫が課題として挙げられる。

□授業方法の工夫

- ・2021 年は原則対面での授業であったので、演習、実技系科目の授業においてはよりきめ細かな個別対応ができた。教材制作の授業、運動実技の授業、ピアノ実技指導の授業、保育現場に対する実践力を身につける授業での学生指導が非対面授業より充実していた。
- ・対面での授業であったので、実習指導の授業では実習の目標、日誌の書き方、指導案作成、模擬保育、実習に対する心構え等に対するきめ細かな学生指導ができた。
- ・基礎ゼミ、保育教職セミナー、保育・教職実践演習での授業の学生対応が対面授業の方がよりきめ細かに指導できた。
- ・グループワークを通じた実践の発表の授業が学生にとってよい学習機会を提供していた。
- ・対面授業を行いながら、非対面授業対応の学生への遠隔での授業ができたことは学生への学習機会の提供という点で有効であった。

□学生の授業参加の取り組み

- ・課題への取り組みが積極的であり、課題の提出率がよかった。課題内容も一定の水準をクリアしており、保育者として身につける知識・技能は獲得できた。

- ・対面授業であったので、教材を使用した実践では、学生同士のコミュニケーションが図れ、グループ活動への積極性が高かった。

【アンケート結果に基づいた学生への回答】

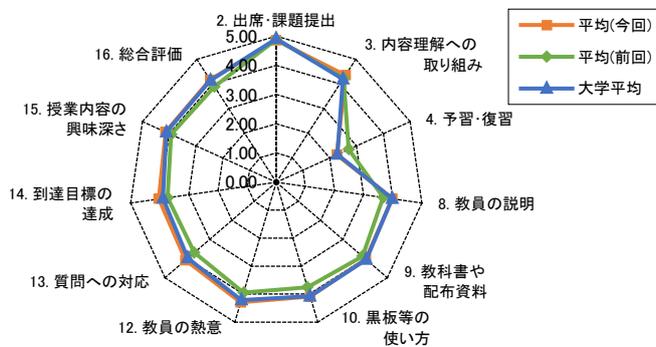
- 教員からの一方的な話が多くなっているとの指摘がありました。学生が自身で考えて文章を書いたり、ディスカッションをしたりする時間を増やしていきたいと考えています。
- 予習・復習の時間が少ないため、次年度はもう少し課題を増やして、学生が自ら学習する時間を増やすように促したいと思います。
- 教育・保育における専門的な知識に対する理解は難しいと思いますが、授業に対して主体的に取り組むことが大切だと思います。
- 「わかりやすかった」というコメントが複数あった。次年度も具体的でわかりやすい授業を進めていきたいと考えています。

学校教育学科 2021 年度授業改善アンケート結果のまとめ

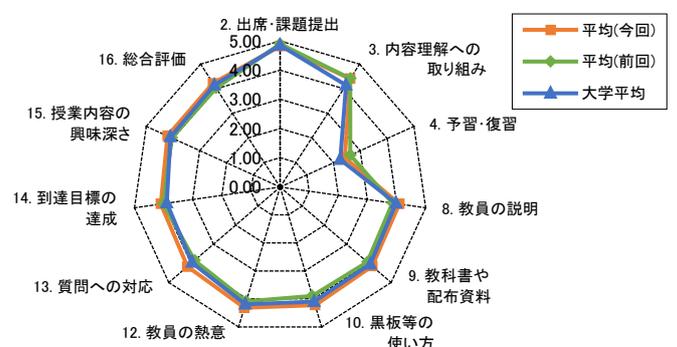
1. 概況

2021 年度前期および後期のアンケート項目について、学校教育学科の平均値と大学平均値を比較したレーダーチャートは以下のとおりである。

チャートの形状からは、学科と大学の平均値に大きな違いは見られず、同じような回答傾向であることがわかる。また、チャートの形状で目立つ点は、項目 4 の予習・復習（質問「1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか」）で大きくスコアを落としている点であるが、これも学科と大学の傾向はほとんど同じであった。



学科前期スコア



学科後期スコア

2. 設問ごとの学科と大学のスコアの比較

(1) 学科スコアが大学スコアを上回る項目

学科平均値が大学平均値を 0.15 から 0.2 ポイント程度上回る、大学に比して学科の結果がやや優れていると考えられる項目は 4 項目であり、授業への積極的参加、予復習の時間、授業時間外での対応の適切性、授業目標の達成、であった。なお、ここでは僅差で上回るものは省略する。

これらの項目からは学生の学習意欲が高く、授業の学習成果も高かったと考えられ、受講者、授業者双方の取り組みに一定の評価ができそうである。一方、「授業内容が興味深かったかどうか」（設問 15）では大学平均を学科平均が前期 0.03、後期 0.11 上回ったにすぎず、授業において学問的もしくは実践的な学生の興味関心を引き出す必要があると考えられる。

○設問 3 あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。

（前期：大学 4.19／学科 4.35 後期：大学 4.14／学科 4.41）

○設問 4 1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。

(後期のみ：大学 2.25／学科 2.42)

○設問 13 授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。

(後期のみ：大学 3.96／学科 4.17)

○設問 14 あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。

(後期のみ：大学 3.89／学科 4.10)

(2) 学科スコアが大学スコアを下回る項目

一方、学科平均値が大学平均値を下回る項目は以下の通りです。前期後期を通して僅差ではあるが大学平均値を下回った「出席または課題提出」の項目では、出席状況に課題があるのか、課題提出状況に問題がみられるのかについて精査が必要である。おそらく、出席状況より課題提出状況について回答された結果であり、それは他の学科に比べてレポート等課題を課す頻度が低いことに原因があると推測される。

○設問 2 あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。

(前期：大学 4.91／学科 4.86 後期：大学 4.85／学科 4.82)

○設問 4 1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。

(前期のみ：大学 2.29／学科 2.26)

○設問 9 教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。

(前期のみ：大学 4.05／学科 4.03)

3. 今後の改善に向けて

第 1 に、大学全体の特徴でもあるが予習・復習時間のスコアが低い点について、改善が必要である。同設問の学科の後期における回答数を詳細に見ると、授業外での学習時間に学生によりばらつきが大きく、かつ、その時間が短い学生が多いことがわかる。この点について、学科として授業時間外学習の在り方や指導の仕方を検討する必要があると認められる。

第 2 に、授業としての目標達成ができて一方、その興味深さについては大学平均にとどまっている点について、教育学の学びへの知的好奇心を喚起し、興味関心を高められるようなカリキュラムや授業の在り方について、学科として検討が必要であると考えられる。

以上

2021 年度・授業改善アンケートの結果に対する改善策

【1】授業に対する評価結果と課題

(1) 回答の概要

- 昨年度と同様に、科目全体の評価では、キャンパス間の差もあまりなく、ほぼ全体平均と一致した。
- 科目全体の評価では、前期はほぼすべての項目において、昨年度よりも高評価であった。しかし後期は、前期と比較して評価がややおちる傾向が見られた。
- なお、科目全体の評価では、例年同様に授業外学習の時間は少ない傾向が見られるだけでなく、昨年度よりもさらに授業外学習時間が減少している傾向が見られた。

(2) 改善すべき課題

- 回答率がひくかった昨年度と比較しても、アンケートへの回答率がさらにひくい。回答率をあげることが課題である。
- 総合教育センターの科目は、そのほとんどが、前期は授業期間の半分ほどが非対面授業であった。前期の相対的な高評価が、対面授業の影響によるものであるのか、非対面授業によるものであるかを検討することが、今後の授業形態をかんがえるうえで課題になるとおもわれる。
- 授業外学習時間が前期と比較して後期で有意に減少している理由は、ほぼすべての授業が対面授業となったことが影響しているだろう。すなわち、授業中しか学修しない学生が多数いるということが改善すべき課題である。

【2】課題に対する改善策

- アンケートへの回答率をあげる工夫が必要である。たとえば「アンケートに回答してください」と事務的に連絡するだけでなく、授業時間の一部を使用することがかんがえられる。
- 授業外の学修を正当に評価する仕組みを導入することにより、授業外の学修をうながすような工夫が必要である。
- 授業外の学修をうながすために、図書館の活用をうながす取り組みをさらにすすめることができればよいかもしれない。

【3】その他の改善策

- 学生からの不満でおおいものは、大学の WiFi に接続できないということである。空き時間に課題にとりくみたいとおもっても、通信環境がわるいために、おもうようにすすめられない学生が散見される。ネットワーク環境の整備がのぞまれる。
- アンケートへの回答率が低い理由としては、授業改善アンケートだけでなく、さまざまな種類のアンケートが実施されており、「アンケート疲れ」している学生がおおいということが推測される。授業改善アンケートにしても、回答すべき項目が多数ある。項目を厳選することで、アンケートに回答する負担をへらす工夫をするべきではないかとおもわれる。
- アンケートを実施しても、その結果がどのように授業に反映されているかがわかりにくいという問題もある。アンケート結果はホームページで公開されているけれども、どこに公開されているかが非常にわかりにくい状態である。たとえば、サイトマップをみても、アンケート結果へのリンクはわからない。アンケート結果が公開されているということをしつていれば、「授業改善アンケート」でサイト内検索することによって、容易にみつけることはできる。しかし、そもそも公開されているということが知られていない、知っていても検索すればよいということがわからない、といった状況がある。知りたい情報が、検索にたよらずとも、簡単にみつけられるようなウェブサイトをつくる必要があるとおもわれる。
- 従来のキャンパス・スクエアによるレポートの回収と評価は、操作性がわるかった。今年度から導入されたウェブクラスにより、改善が期待される。ただし、現状では、ウェブクラスに付随するさまざまな機能を十分にいかしきれていない教員がおおいようである。ウェブクラスの活用についての実践例を具体的に示る機会があればよいのではないかとおもわれる。
- 今後、千住と東京西とで同一科目を開講するばあいなどには、遠隔授業を活用する可能性がかんがえられる。しかし、教員が一人で授業をおこないながらカメラや音声の設定をおこない、一方の教室だけでなく他方の教室の学生の反応にも目をくばるといことは、現実的ではない。教員は授業の実施に専念し、カメラや音声ならびに他方の教室には別途 TAなどを配置するといった配慮が必要となるだろう。

2021年度 授業改善アンケートを受けて

1、総合的見解

- ① 概ね大学平均を下回ることはなかった。ただし、平均値については、大学全体で向上していくことが望まれるため、本センターでもそのことを意識し取り組みたい。
- ② 結果のうち、「2021年度前期（千住）」において、（8）説明のわかりやすさ、（9）資料の効果（10）視聴覚資材（13）授業時間外における対応、（14）到達目標を達成したか（16）総合評価の項目で、最低値は3・84と4に近い数値ではあるが、3点台であったため、学生の利益を考え、向上策を考える必要がある。
- ③ 両キャンパスとも、学生の課題への取り組み、授業への興味関心これら前後期を問わず、高い数値であった（12）教員の熱意も寄与していると考える。
- ④ 学生の協力により、感染予防を行いながら授業を成立させることができた。

2、課題と改善策

- ① 1-②の改善策としては、1年生は新入生ということもあり、より分かりやすい説明とともに、（14）到達目標を達成したか、については、具体的な達成感が持てるよう「当日のめあて・授業テーマ・深めていく内容」について、さらに明確にしていくよう努力したい。また、2年生以上は、教職の中でも専門的な内容が増えていくため、それらを学ぶ意義（子どもの発達や成長及び学校教育との関連等を分かりやすく示すなど）を学生と確認し合うこと、加えて、各授業で学び得たことを振り返り、自身の学びがいかに深まり、広がったのかを学生が実感できるよう努めたい。
- ② なお、本アンケートについては、学科・各センターからのフィードバックとともに、各教員からのフィードバックも丁寧になされているため、その点もアンケートに取り組む前後に学生周知したい。
- ③ ちなみに、4年生においては4年間を振り返った丁寧な記述コメントが寄せられるが、学科・各センターからのフィードバックとともに、各教員からのフィードバックが見られないことが残念だとの声もある。ゆえに、4年生対象授業について、各教員からのフィードバックだけでも年度内に公表可能か検討いただきたい。
- ④ また、センター内から、予算上制約があることは承知の上で、マークシートに戻すことはできないかという要望もあったため、付け加えておく。（回答率の向上や、「アンケートの封を学生にさせる」等工夫をして、授業アンケートの意義を考えさせる機会づくりにもなっていた等の理由が挙げられる。）

<基礎医学系科目（解剖学など）>

2021年度は非対面授業から対面授業が主となったためか、説明の分かりやすさや授業資料使用の適切さ、教員の熱意など、昨年度の非対面授業で下降傾向にあった評価が上昇する科目がほとんどであった。また、多くの科目で、難易度が『やや難しい』～『とても難しい』を選択した学生が多く、授業の進行速度も『やや速い』と感じたようであり、全学平均と比較すると予習復習にかけた時間も多くなっていた。いずれの科目も、国家試験において1科目での出題数が圧倒的に多く範囲も広い上に、初見の専門用語が1回の授業で100や200を超えることは当たり前であり、膨大な量の知識が求められる。そのため、まずは専門用語に対する拒否感を減らすために専門用語の解説を丁寧に行うことが必要であるが、一度に解説する分量や難易度によっては、多くても少なくとも拒否感を強めることになるため、今後も継続して予習復習を前提としたレポートや小テストを用いて学生の理解度を都度確認しながら講義を行っていきたい。また、学生は各科目の内容を理解することで精一杯であり、残念ながら各科目間でのつながりを理解するまでには至っておらず、授業する立場からしても各科目の分量が多いために、理解するためのヒントを与える程度に留めざるを得ないこともある。各科目間でのつながりを理解することは医療従事者になる上で非常に大切であり、最も楽しく感じられる時間でもあるため、今後も継続して授業内容の進行を各科目の教員間で共有する等、学生の理解が深まるよう努めたい。

<臨床医学系科目（内科学など）>

2021年度は、昨年度に非対面授業で好評であった点や、これまでの対面授業で好評であった点を継続したことで、多くの学生が内容を『やや難しい』と感じているにもかかわらず、進行速度が『適切』と感じられる授業を展開できた科目が多かった。しかしながら、進行速度が『適切』と感じる科目では予習復習にかける時間が減少する傾向にあり、授業外の学習には繋がらなかったようである。また、基礎医学系科目と比較すると難易度や進行速度は『適切』～『とても難しい』や『速すぎた』まで、回答に幅が見られた。臨床医学系科目は学生にとって未知の世界に急に足を踏み入れるような科目であるため、まずは臨床（医療）の世界のイメージを持ってもらい、平易な言葉や説明を使うことを心がけて授業を行っているが、臨床医学系科目は基礎医学系科目を十分に習得していることが前提となるため、学生の基礎医学系科目の習熟度によって、感じる難易度にも差が出てしまう。そのため今後も継続して、基礎医学系科目の内容も含めた解説付き資料を配布する、授業冒頭で要点を明示する、国家試験との関連をその都度指摘するなどして、学習意欲が高まるよう促した上で、できるだけわかりやすく授業を行い、授業以外での予習復習もしっかり取り組んでもらえるよう努めたい。

<まとめ（学生の皆さんへ）>

学生の皆さんが国家資格を取得するために習得すべき内容が決まっている中で、ぎりぎりまで難易度を下げて講義をしています。毎年、より分かりやすくなるよう視覚的な情報を増やしたり、平易な言葉で説明したりする等、改善を続けていますが、上位学年であれば下位学年で習得すべき内容をしっかり勉強できていないと、理解はかなり困難になります。1回の授業内容も他の科目に比べて膨大になることも多いため、引き続き最低限のレベルを保ちつつも簡潔に理解しやすい講義になるよう、改善していきたいと思います。それでも、学生の皆さん自身が予習復習等の授業外での学習を行うこと、授業を集中して聞き、できるだけ授業内に理解すること、授業内で理解できなかったことは放置しないでできるだけ早めに質問し解決すること、を心がけた姿勢を取らない限りは、教員が毎回毎年授業の改善を行ったとしても、効果的な授業になることはありません。お互いに効果的な時間を過ごせるよう、一緒に改善していきましょう。また、授業内に理解できたと感じる場合は、授業内の内容を超えた、更に難しい内容も意欲的に学習することをおすすめします。医学教育センターには皆さんの取得予定の国家資格とは異なる専門分野を持つ教員が多くいます。臨床に出た後には、分野の異なる専門家に気軽に質問できる環境は多くありません。大学在籍中に多くの疑問を持ち、積極的に質問する姿勢が取れるよう、心がけていきましょう。